森を巡る。ヒュッテ(小屋)を巡る。
いなべの農とトップレベルの食が呼応する。

GCI
Green Creative Inabe

三重県いなべ市

にぎわいの森

Inabe Hütte【いなべヒュッテ】

2019.5.18SAT.OPEN

生業がある
暮らしがある
生き方がある
美しい町・いなべ

地方を活かす、魅力的にするには、
都市で鍛えた人々のチカラも必要だ。

にぎわいの森の中には、フードブティック、カフェ、パン、パティスリー、フレンチ シャルキュトリー等の5つのお店（ヒュッテ）がオープンします。また、ワインを作る葡萄園やピクニックが出来る林もあります。これらのお店は、全て名古屋、大阪で既に高い評価を得ている業界トップランナーのシェフ、オーナーのお店です。彼らは、一様に、地域との関わりの中で自らの暮らしや、食の在り方を模索し、ローカル（地方）にこそ、次代の仕事の在り方や、可能性があると自覚しています。（ローカルセンス）一方、いなべには、米作りだけでなく、養鶏、養豚、お茶、蕎麦、野菜、果実等、多様な農、いわば「食材」があります。只、これらを活かした加工、いわば「食財」と呼べるものは、なかなか育っていません。そこで、にぎわいの森「いなべヒュッテ」のオープンを機に、いなべの多様な農が、都市で鍛えた彼らのセンスとスキルによって、私達の暮らしの中でも身近な食と繋がる。これは地方故、可能な魅力、これを体験出来るいなべ故の魅力だと思いませんか?

＊にぎわいの森　いなべヒュッテ出店者
フードブティック：キッチュエビオ（名古屋）　カフェ：カフェロブ（名古屋）パン：プーフレカンテ（名古屋）　パティスリー：ラヴィルリエ（大阪）　フレンチ シャルキュトリー：フチテイ（名古屋）
※店名は変更となる場合があります。

働きがい、生きがいを感じる仕事なくして、
地方の魅力、移住無し。

好きなことを仕事に出来る喜び。人はそこに自由を感じられるから、一層仕事に励む。
仕事と暮らしの境目が無い程に。そして、その仕事と暮らしが地域と深く関わる。
これを土着的生業と呼んでいます。
にぎわいの森「いなべヒュッテ」に出店する人々は、生業人です。彼らの殆どは、いなべに移住します。
いなべの農と繋がる食の土着人となります（地縁店）。
一方、彼らの作る食が、にぎわいの森「いなべヒュッテ」を訪れる人々に評価される、評判になる。
すると、彼らと繋がるいなべの農の生産者にとっても、それは励みとなり、
働きがい、生きがい、生業人へと繋がっていきます。お店で働く、今は下働きの人々も同様でしょう。
にぎわいの森「いなべヒュッテ」のオープンは、お店のシェフと生産者が生業で繋がり、
その輪が、いなべで拡がるばかりか、第2、第3の農と食の生業人による起業を見据えています。
地域雇用ではなく、こうした形の地域起業が移住にとって重要な、働きがい、生きがいある仕事への
キーワードだと思いませんか?

生業がある
暮らしがある
生き方がある
美しい町・いなべ

地方が人を引き付けるのは、店、消費、観光だけではない。暮らしの豊かさへの希望づくり、人づくりだ。

にぎわいの森「いなべヒュッテ」は、有力な店による商業的、観光的面だけを
持つものではありません。いなべのまちづくりへのトライアルです。
まちづくりにとって重要な土着的生業や起業を切り口とした住む場、働く場づくりであり、
農、食の価値を高める、人づくりを切り口とした文化の場づくりです（GCI）。
これらが成り立つよう、いなべでは、これまで様々な試みを行ってきました。
（生活リーディングカンパニーとの連携キャンペーン事業、空き店舗を活用した生業起業店の
オープン事業、生産者や市民との交流事業等）一方、にぎわいの森「いなべヒュッテ」を
訪れる人々にとって、まちづくりは、さほど意味を持たない面もありましょうが、
こうした取り組みから、出店する人々、土着化する生業人、トップランナーな人々に対して、
これからの暮らしの豊かさ、生き方への模索の1ケースとして、共鳴が生まれることでしょう。
中には、興味、関心が深まり、自分の暮らしに投影し、より詳しく話を聞いてみたいとする人々も
いることでしょう。暮らしや人生、仕事への希望が、彼らから、また、にぎわいの森「いなべヒュッテ」に
対するいなべ市の考え方から垣間見られることでしょう。ここが、すごく大切だと思いませんか?

グリーンクリエイティブいなべ（新庁舎建設まちづくり）プロジェクト
事業主体／三重県いなべ市　プロデューサー／石黒靖敏コンサルティングアソシエイツ事務所